

クルリンと ほしぞらさんぽ 6月号



お天気がよくなりますように

もう6月ですね。梅雨に入ったらほしぞらさんぽができません。できるだけ晴れてほしいなあ。

月とほしぞらさんぽの関係 復習編

下に6月の月の形の変化を並べておきました。ほしぞらさんぽに月はジャマですから、月がない夜の見当けんとうをつけなければなりませんね。では問題です。6月にほしぞらさんぽができそうなのは何日から何日まででしょうか。下の図を見てよくよく考えてね。

新月の翌日よくじっからだんだんと大きくなっていきます。また新月の翌日は太陽を追ってすぐに沈んでしまいますね。では新月の前は？ 夜中に月が出てくるのでしたね。さてあなたが考えた答えは？

正解は次ページで。



夏の星・夏の星座が出てきています

夜空を見上げると、春の星々の代表「春の大曲線」が南から西の方に傾きかけています。春の星座のしし座・かに座・おとめ座はもう西に移ってしまいました。

北東の空に明るい1等星が輝いていますね。こと座のベガです。こと座は夏の星座、北天にあるので長い期間見ることができる星です。

ベガは実際は0.03等と0等級に限りなく近い星です。距離は地球から25光年、色は白色、これは表面温度が高いからで、9600度ですからほぼ1万度ですね（ちなみに太陽の表面温度はだいたい6000度だそうです）。

星には色々とお話・伝説・民話などがありますが、ベガは七夕の星として「織女星しよくじょせい」「織姫星おりひめぼし」と言われていますね。七夕のお話は知っているでしょうか？ 知らなかった人はこの機会にぜひ図書室で本を探して読んでみましょう。7月号で七夕の星を紹介しますから、それまでにお話を知っておいてね。

南を向いて星空を見ましょう。ちょうど天頂付近に名前はよく知られているかんむり座がありますが、明るい星がないので見つかるでしょうか？ 知られているわりには見たことない人が多い星座です。

南の低い空にさそり座のアンタレスが見えているはずですが。夏を代表する星座さそり座ですね。アンタレスはほぼ1等級、低いのでベガほどは明るく見えないけれど、かなり赤いので双眼鏡があれば確認できます。さそり座についてはまた書きましょう。

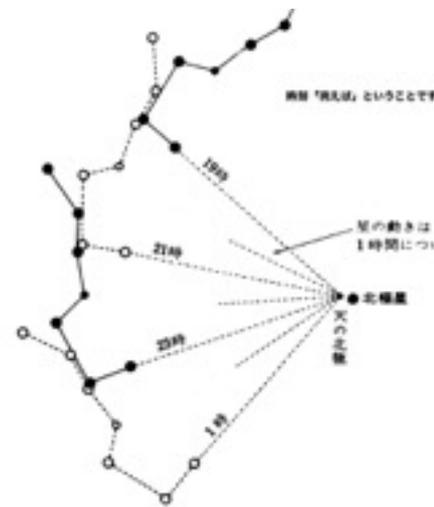
次は北の空。大きなひしゃくの形が空につっ立っていますよ。北斗七星ですね。北斗七星は星座の

名前ではなく、星座としてはおおぐま座の一部です。春から夏の時期には北斗七星がはっきりと見えます。北斗七星が見えると北極星が見つかりやすくなります。北極星は2等星なので伊勢原の明るい夜空でも見えますから、ぜひ探してみてください。

北極星はこぐま座にあります。こぐま座もひしゃく形で、北斗七星よりだいぶ小さいひしゃくになっています。

金星を見よう

地球の兄弟星・金星や水星を見たことがありますか。どれも太陽の周りを回っている惑星わくせいと呼ばれている星です。水星はちょっと難しいけれど、



金星はすごく明るいのでかんたんに見つけられます。でも金星も水星も、1年中いつも見えているわけではありません。

今年の6月は金星が見えます。何日？ 何時ごろ？ 実は5月の後半にも見えていました。場所は少し変わりますがそのまま6月中も、ずっと見えているはずです。

金星は太陽の近くにいる星ですから、太陽が沈んでからその方向を見ると2時間～3時間ぐらいの間、明るく輝く金星を見られます。三脚でカメラの位置を決めて毎日同じ時刻に写真が撮れると、

金星の秘密に気付けるかもしれませんね。水星が見えるころにはまたお知らせしましょう。

【答】6月ほしぞらさんぼができる夜。

6月は6日から22日ごろまでがほしぞらさんぼ可能な夜でしょう。6日は月の出が21時30分、翌日は月の出がもっと遅くなりますからじゃまになりません。他方23日は月が沈むのが22時半過ぎで、細い月ですがしっかり輝いています。その後は沈むのがもっと遅くなり、月の形も大きく明るくなります。

